- 5 本時の指導 (テーマⅢ「学校が指定避難所になったら…」)
 - (1) 本時の目標

避難訓練についての振り返を通して、課題を明らかにするとともに、対応策を考える。

- (2) 準備・資料 付箋, 模造紙, カラーペン, 指示棒, 学校全体図, マグネット
- (3) 展開

※研究主題に迫るための支援

学習活動及び内容	学習形態	支援と評価
 本時の学習課題を知る。 11月30日の避難訓練を振り返り,課題を明らかにしよう。 K J 法を使って,課題を洗い出す。 付箋によかった点,改善点を書き込む。 自分の書いたことをもとに,発表する。 	学習形態 一斉 グループ	支援と評価 ・学校の全体図を準備しておき、避難訓練のときの教師や生徒の動きを視覚的にわかりやすくする。 ・話し合いに入る前に、教師があらかじめグループ編制をしておく。 ・生徒はKJ法を使った話し合いは初めてなので、進め方について教師がレクチャーする。(指導)
(3) グループで話し合い、課題を明らかにする。		・いろいろな視点から課題を挙げさせるために、気付いたことを付箋に書くときには、内容を限定しない。(指示)・付箋を貼る際には、書いた理由や思いを発表させる。(指示)
3 課題にもとづき、対応策を練る。(1) グループ毎に課題を発表する。(2) 出された課題をもとに、対応策について話し合う。	グループ	・生徒から発表された課題を緊急性 のあるものから日常の備えまで 分類しやすくするために、構造的 に板書する。 ※課題の対応策を話し合わせると きには、学校が指定避難所になっ た場合だけでなく、地域の災害ボ ランティアとして活動する場合 も視野に入れて考えさせる(指導)
		 動 防災訓練を振り返って課題を挙げ、対応策を考える。 ○自分なりに課題を見いだし、いくつかの対応策を示すことができる。 ・次の活動では、対応策にもとづいてシミュレーションすることを知らせる。

- 5 本時の指導 (テーマⅡ-1「未来に残そう 災害の記憶」)
 - (1) 本時の目標

異常気象について調べてきたことをもとに、情報発信への準備をする。

- (2) 準備·資料
- (3) 展開

※研究主題に迫るための支援

学習活動及び内容	学習形態	支援と評価
1 本時の学習課題を知る。		・班ごとの活動に入る前に、各グル
さまざまな異常気象について調べ, 発生	一斉	ープから進行状況並びにこれま
メカニズムや避難の仕方, 日常の備えなど		でに調べてきたことについて報
についてまとめよう。		告させ、情報を共有する。(指示)
2 調べ学習を進め、まとめる。	グループ	・本時は調べ学習に入って3時間目
(1) 本時の役割分担と時間配分を決定する。		であることから、新たな情報を入
(2) 分担にしたがって、まとめる。		手するという目的ではなく、これ
【予想される生徒の反応】		までに調べてきた内容をより詳
○日本やつくば市の黄砂による被害について		しくわかりやすくすることを目
は調べたけれど、アジアの他の国々ではど		指して調べさせる。(指導)
うなっているのだろう。		・次時はプレゼンテーションの練習
○日本は山が多いから, 噴火による被害があ		を行うので、下書きの案をもとに
る。筑波山などの周りでは起きていないこ		スタディノートのポスター機能
とから、活火山かそうでないかが関係して		を使ってまとめさせておく。ポス
いることも情報として入れておこう。		ター機能を活用することで,学習
○これまで雷の発生メカニズムについて調べ		単元の終末段階における学園内
てきたが、つくば市での発生状況や実際の		や地域へ向けての発信をしやす
被害はどうなのだろう。詳しく知りたい。		くするためである。(指導)
○発表を聞く人のために、写真やイラストが		商 特和水俣→知取1× ICVP ₩ 四
あった方がわかりやすい。		・情報発信を視野に、ICT機器
○見出しの内容や大きさを考えた方が、見る		を使って適切にまとめること
人の目を引くと思う。		ができたか。
		○これまでに調べてきたことを
		生かし、簡潔にわかりやすくま
		とめることができる。
		※様々な気象災害について調べた
		内容を自分の住んでいる地域の
		実状と照らし合わせて考えさせ
		ることで、地域への理解を深めさ
2 大味の学習活動を担い返す	グループ	せる。(指導)
3 本時の学習活動を振り返る。	個人	・グループ及び個人で活動状況を振 り返らせ、次時の課題を明らかに
	四八	
		する。

- 5 本時の指導 (テーマⅡ-2「未来に残そう 災害の記憶」)
- (1) 本時の目標

北条地区と弘前市の竜巻被害の状況について情報交換するとともに、今後の気象災害等の 発生に備え、自分たちにできることについて話し合う。

- (2) 準備・資料 PC (スカイプの設定), スクリーン, マイク, ワークシート, 地図
- (3) 展開

※研究主題に迫るための支援

学習活動及び内容	学習形態	支援と評価
1 本時の学習課題を知る。(2分)	一斉	・5月に発生した竜巻の被害状況を
・	グループ	示す中学校区の地図、発表ボード
し、災害への備えについて考えよう。	48 (25,000) September 1	等、必要なものはグループ毎に準
0, 201 2000,000		備させておく。(指示)
2 ワークショップ形式で、調べたことやまと	グループ	※学校紹介をするなかで、自分たち
めたことを発表する。		が地域において活動してきたこ
(1) 互いの学校の特色や現在行っている活動		とにも触れる。(指導)
内容について紹介し合う。(5~7分)		・ワークショップの時間は,20分
(2) 発表をする。(5分×3班)		確保する。本校の発表は5分ずつ
(3) 北辰中学校の発表を聞く。(5分)		3班で行う予定であるが,時間に
(4) 感想や考えたことを伝え合うとともに、		余裕があれば、グループの入れ替
気象災害にかかわる避難行動や災害への備		えを行い、異なる視点からのまと
えについて話し合う。(8~15分程度)		めた情報も伝えさせる。(指示)
【予想される生徒の反応】		・相手校の発表を聞く際に、今後の
○竜巻の大きさによって被害に違いが出る。		学習に生かせる事柄については
気象情報をチェックする必要がある。		メモを取らせる。(指示)
○竜巻はいつ起こるかわからないので、身を		・意見交流では、避難行動や災害へ
守る方法について知ることは大事だ。		の備えにかかわることを重点的
○これから災害ボランティアとして活動した		に話し合わせる。(指導)
ことをグループでまとめていくので、北辰		
中学校のみんなに役立ててもらえると嬉し		し合いを行い、情報交換をする
ν _° .		ことができたか。
		○ 災害時の避難行動や備えにつ
		いて、自分の考えを進んで伝え
		ることができる。
3 本時の振り返りをする。	一斉	・得られた情報をもとに、今後の活
3 本時の版り返りでする。	Я	動の進め方について考えさせる。
		・次時の活動は、本時で得られた情
		報をそれぞれの学習グループで
		共有していくことを知らせる。
		大力していてことを知りせる。

- 5 本時の指導 (テーマ I 「竜巻発生のメカニズムを探ろう」)
 - (1) 本時の目標

竜巻の発生メカニズムや威力等について知り、適切な避難行動の在り方について考える。

(2) 準備・資料 地図, カラーペン, マグネット, PC

(3) 展開

※研究主題に迫るための支援

(b) [X][I]	77 22 44 44	大切九上屋に足るための人阪
学習活動及び内容	学習形態	支援と評価
1 本時の学習課題を知る。		・学習課題を提示した後,本時の講
竜巻の発生メカニズムや環境へ及ぼす	一斉	師を生徒に紹介する。
影響について知り,避難行動の在り方を考		・5月に発生した竜巻の被害状況を
えよう。		振り返るために, 中学校区の地図
		を準備しておく。
2 講師から、竜巻発生のメカニズムについて	一斉	話を聞きながら大事だと思ったこ
説明を受ける。	V// 55.00	とや気付いたことをメモさせる。
注)☆を参照		(指示)
		・専門用語や難解な言葉がある場合
		には、教師が言葉を補うことで生
		徒の理解を助ける。
		・質疑応答の時間を確保する。
3 竜巻が起きたときの状況を想定し、適切な		・日常の生活に照らし合わせ、時間
		CONTRACTOR OF VIOLENCE DEPOSITE USE AND IN COST ADDRESS.
避難行動について話し合う。	120	帯や場所を具体化して、避難行動
(1) グループに分かれ、時間帯と場所を決定	グループ	を考えさせる。(指導)
する。		※避難をするときには自分の身を
(2) 竜巻に気付いたとき、竜巻が接近してく		守ることが最優先であるが, 周囲
るとき、竜巻が通過した後の3段階で、避		の人と一緒に避難する場合も想
難行動を考える。		定させ、自分にできることを考え
(3) 話し合ったことを発表する。		させる。(指導)
		❸ 竜巻が発生したときの適切
		な避難行動について考えるこ
		とができたか。
		○ 竜巻発生の時間帯や場所等に
		応じて、適切な避難の仕方を考
		えることができる。
		・自宅や家族から離れている場合も
		想定させ、連絡をとる手段につい
		ても考えさせる。(指導)
4 竜巻が発生したときの避難行動についてま		・次の活動では、竜巻以外の気象災
とめる。		害に対する避難行動について考
		えることを知らせる。

☆コリオリの力の説明から入り、過去に日本に被害をもたらした台風について取り上げる。終末には、日本人が一定方向から吹く風に備えて来た例(屋敷林)などを紹介する。理科の学習にかかわる内容も盛り込む予定とのことなので、本時は学習活動2で終了になるかもしれません。

<ヒアリング調査事例>

2012年12月21日 毎日新聞 朝刊



2012年12月13日 毎日新聞 朝刊



2012年12月13日 マチゴト 豊中・池田



位前に本書が終生した際に、どの程度の被害が出るのかをお扱 上で表示。多様な限い場合あるを必ずともはな。 変響を表現とよりの本書は本大海以デーカイブはこちらから はよびである。

透明号(りんなど度)以来、 も、京い島和生は大 れないデータを知った他用

であせると、皮膚形質が かったので、いっすればい かったので、といった かったので、といった 資操応寄では、 でいるが、 対場形表的は たの子」といった質問 での子」といった質問

時間軽減に沿ってわかる上 弘明は自然被害の少ない 0 こ 要素なら、自然災害が自立 たな問題を通り必要性から発 を関題を関係を発生から発 行列の行政を終した後、実 行列の行政を終した社 を発本地区で発生した士 でが水砂してしまうかもしが発生するのかを検証。自 明記した現在の地面と重ね が発生するのかを検証。自合わせ、どのくらいの水管

いちのデータを得り

- を成じさせる声が吹々にあ なったいなら、窓線の変化 、淡海を得妊に終じる機会に

イフーの技術を転用。物気 他のパンラマ与音や航気を が発展した場合を、地図と 単位金との行われ、大のに 単位金との行われ、大のに とりとは議場の被告状況を 単化させないために 素化させないために 素化させないために 大プロシマ・アーカ イプログオリキ・アーカ 」は、 製役の役割



□ 防災 ICT, を配信

議論の様子は「いつ・もの・こと私募版」公式サイトから ご覧いただけます。トップページの「その社」カテコリから「防災 ICT」をクリックしていただくか、何選士隊 18 時 から定規監督いたしますので、どうそご覧ください。



行力の日を確ってい

2012年12月14日 いつ・もの・こと 弘前版

インターネットを使った防災セミナーに15人

インターネットの「Google E arth (グーグルアース)」を使った 地域防災セミナー (毎日新聞主催) が 12月9日、豊中市立蛍池公民館で開か れ、豊中市の住民ら15人が地農や洪水、 単波が起きたときのシミュレーションや 避難場所への逃げ方などで意見を交わし

セミナーでは、講師を務めた救過英

徳・首都大学東京准教授が 3次元マウスを使って豊中 市や東京の立体的な地図を 披露。 5メール、30メー トルの漫水が起きた時にど こが水没するかを具体的に 示すと、リアルな映像に参 加者から驚きの声が上がっ た。また、参加者の自宅か ら避難所まで行くルートな どを3次元地図で示して見 せた。参加者からは「避難 場所の泥雑具合や食糧の備 者についての表示があればいい」「鷹呂 やトイレが使える場所がわかると助か る」などの意見が出た。

複過准教授は「インターネットやス マートフォンは災害時には使えないかも しれないが、普段からシミュレーション を行うことで頭の中に立体的なイメージ を描いておくと、いざという時に役立つ」 と話していた。 (早川方子)



直向な表情で講義に算を傾ける参加者たち

くその他事例>

2011 年 9 月 24 日 毎日新聞 朝刊

災害時の不安

#EE359##### 必要な支援提言



うまく入ってくるか

遊難情報

2011 年 6 月 25 日 毎日新聞 朝刊



集中後市の大田 コード (1987年) 1982年 19

Casterda A (orresented and orresponding and orresponding

94

2013年1月25日 毎日新聞 朝刊



2011 年 8 月 30 日 毎日新聞 朝刊

地域防災のヒント、先進的事例

ヒント集」「減災のでひき」など減 紹介しているほか、「地域における 紹介しているほか、「地域における が災活動のきっかけづくり 情報・ いないないない。「地域にないないない。」

内別的は、国民一人一人が目にろから災害への具体的な備えをすることで安全で安心して暮らせる社会をつくるための「災害疾患を経済する国民規制」を展開している。
「そのホームページ(http://www.housai.go.jp/km/)=写真Whousai.go.jp/km/)目外になる。

内閣府 HPで紹介

「マグニチュードが1・0上がると地震のエネルギーは効性」など炎きのはなっているので、末体験の炎害も高いにきるコーナーもあり、自分の認識を修正できる。災害の事権が最も思うれている。具体的に想像しのすくなっている。災害要害を修練する国民運動のホームペーシに掲載されている情報の大半は、非営利目的なら、学校や企業などで自由に适用できる。

THE THE PARTY OF T

※に扱立つパンフレットや子供向け ※に扱立つパンフレットや子供向け の歌が画 「理教だ! いなむらの火 をけすな」をダウンロードできる。 「一日前フロジェクト」という本 り組みがある。「妥書の一日前に戻 れるとしたらあなたは何をします か」と報災者に同い掛け、返ってき た体験類や意見を書き根こした物類 を観で続んで生かすのだ。このコー ナーでは、一人一人の成功・失敗終 なり担実的な声がくさん掲載され なり担実的な声がくさん掲載され なり担実的な声がくさん掲載され なり担実的な声がくさん掲載され なり担実的な声がくさん掲載され なり担実的な声がくさん掲載され なり担実的な声がくさん掲載され なります。

2012年8月31日 毎日新聞 朝刊

子ども、若者、被災地から笑顔

防災教育盛り込んだHP完成

東日本大気後でを担じた子どもや若寺の 現在の菓子のはか、最新の加速情報などを 館り込んだかームページ 「minaLーミン ナエガオニナル 」I distpoiewww.ninel. net) 一写書命 全部千葉でたが開作。並 表した。表子で学べる防波教育の内容も整 り込んできり、このような加速研究のホームページに駆したという。

製作を採当したのは、翌千県立大計会業 延学部の世末党政治教授(製書ソーシャル ワーク)らのテール。兵甲兵四宮市のNP の立入「さくらネット」などが他作や集計 度で協力した。観響作業には毎手、兵庫関 県の著書らが知わった。





内容は、留手県で複製に持わる若書たら の決意のメッセーグマ子どもたらの夢マこ かまでの防災教育の取り組みマ散海大量災 の体験等。 などを視聴

の体験器 一などを複数。 また、家庭や学校で研究を学ぶことを目 的に、高語「ももたろう」に登得するキャ ラクターが設書を取り続えるメトーリーの は毎年間であないままたとう」は使った

数を無限されていませんだろう」も作った。 神中学院大の学生が開発した、社会科や 家庭は、国際なども別見教育を合わせた改 材や、「さくちるット」が解釈した「子ど も結別パネルクイズ」も紹介している。

が無い、日本はくちゃっト)が解釈した「子ど も前別パネルクイズ」も紹介している。 山本社が理は「被災地への関心を持ち報 けてもちいたい」、さくちネットの占川市 紀子代表理事は「神戸の研究政策を仕算に 単電したい」と話し、ホームページを選じ で多くの人に、無災や時度に対する理解を 深めてほしいと呼びかけている。

2012年10月19日 毎日新聞 朝刊

